

物理学ノート 1

pinspro

2025 年 2 月 21 日

電磁気学

雑談：電磁気学のはじめのところについて（初学者とクーロンの法則）

電磁気学の初めのところは、初学者向けの多くの本で、点電荷に対するクーロンの法則から始まる。そのときクーロンの法則は実験事実である、という体で始まる。まあ、確かにそうである。しかしクーロンの法則を直接調べると精度が出ない、ということはあまり説明されない。クーロンの法則を世に出したクーロンの実験に至っては、「引力と斥力が距離に依存しているかも」と思える程度にしか説明できない。そういったことを言っていると面倒であるから、講義ではクーロンの実験を出さないほうが話が速い。クーロンの法則だけ説明すればよい。しかしそうすると「どんな実験により分かったのか」と疑問が残る。しかも、キャベンディッシュに始まりマクスウェルによってより正確に実験されたガウスの法則を用いた検証により、わかったとなっても、「ならクーロンの法則ってなぜ教わるんだ？」となる。私が思うに、「最も力学の考えに近いから」という気がする。が、別に調べたわけでもないから根拠はない。

私ならこう書く

クーロンの時代はニュートンに影響されて、万有引力の法則のような、遠隔作用を原因とする力で物理を記述するのが主流だった。当時の力学とのアナロジーで二つの電荷にはたらく力を万有引力の法則と同じ形で表すと、これは実験事実にも合っている。時代を経るにつれて精度の向上や手法の改良した結果、実際に電磁気学で成り立ってる法則として今も続いている。